

北海道大学整形外科専攻医教育について

到達目標

- 整形外科の一般的知識および技術を習得する。
- 幅広く学ぶことによりサブスペシャリティ領域など専攻医終了後の目標を決める。
- 臨床研究を行うことでリサーチマインドを育む（その後の大学院への進学に繋げる）。
- 教育の重要性や面白さを学び実践することで次世代の育成に役立てる。

北海道大学整形外科では RIME 法に沿った診療教育を行なっております。

R (Reporter)：患者情報（所見、病歴）を正確に得て、それを周囲に伝えることができる

I (Interpreter)：患者情報を正確に解釈し、治療方針を立てることができる

M (Manager)：治療方針に沿って症例をマネジメントすることができる

E (Educator)：自身が得た知識・技術を基に後輩への指導ができる

教育プログラムと達成目標

1 年目（大学病院）：Reporter and Interpreter

- 担当症例を通して基本的な診察および治療方針を学ぶ。
- 症例のプレゼンができるようになる。
- チューターから与えられた研究テーマについて臨床研究を行い学術集会で発表し最終的にはプログラム終了までに論文にする。

2 年目（関連病院）：Interpreter and Manager

- 1 年目で学んだ知識を基に関連病院において外傷などの症例を、術前の担当～執刀～外来フォローすることで症例をマネジメントすることを学ぶ。
- 整形外科手術の基本手技を習得する。

3 年目（大学病院＋関連病院）：Manager and Educator

- 後輩専攻医に診察及び治療法について指導することにより自身へフィードバックさせる。（術前診察、プレゼン準備の指導を行う。）
- 興味のある分野に長けた関連病院で研修することで専攻医終了後の進路を考える。

4 年目（関連病院）：Manager and Educator

- 多くの症例や難しい症例（主に四肢外傷）を担当及び指導する事により知識および技術のさらなる習得を図る。

自己評価

定期的に自己評価し先輩医師（大学病院では各班病棟係、関連病院では医長）と話し合うことで問題点や今後の課題を考える。

自己評価方法

別紙の自己評価用紙に記入して行う。

評価時期（計9回）

1年目（大学病院）：各班終了時

2年目（関連病院）：6ヶ月 / 1年

3年目（大学病院＋関連病院）：6ヶ月 / 1年

4年目（関連病院）：6ヶ月

評価後に自己評価表をチューターに提出する。